

厚生労働省の統計調査によると、心筋梗塞、心不全などの心臓病（心疾患）によるわが国の1年間の死亡数は**約16万人**。脳梗塞や、脳出血などの脳卒中（脳血管疾患）による年間の死亡数は、**約13万人**です。これらを含むすべての「循環器病」による年間死亡数は、**約30万人**にもものぼり、年間総死亡者約100万人の3人に1人を占めています＜図1＞。この数値は、肺がん、胃がんなど、すべてのがんによる年間死亡数の**約32万人**（同じく年間総死亡者数の約3人に1人）とほぼ同数です。

循環器病にかかっている1日当たり平均患者数は、**入院31万人、通院90万人**です＜図2、3＞。がん患者は入院**17万人、通院18万人**ですから、循環器病患者はがん患者に比べ、入院で2倍弱、通院では実に5倍にもなります。

そのうえ、退院までの入院期間は、がんの平均35日に比べ、循環器病は58日と長く、中でも脳卒中では約100日と3倍も長くなっています。

国民医療費で見ても、循環器病は、がんの2倍近くかかっています＜図4＞。また、寝たきり介護を受けている人は40万人もいますが、その45%が循環器病患者です。

このように循環器病をひとまとめにしてながめると、死亡数や患者数が多い心臓病、脳卒中、高血圧症などを別々に見る以上に、それらの予防や対策の重要性が浮かび上がってきます。

わが国の高齢者人口は世界第1位の速さで増加し、同時に高齢の**生活習慣病**患者も急速に増えています。最近の調査報告によると、わが国の総人口の1/4強（3400万人）を占める60歳代以上の3人に2人が高血圧、3人に1人が高脂血、4人に1人が肥満、7人に1人が糖尿病で、その深刻さは明らかです。

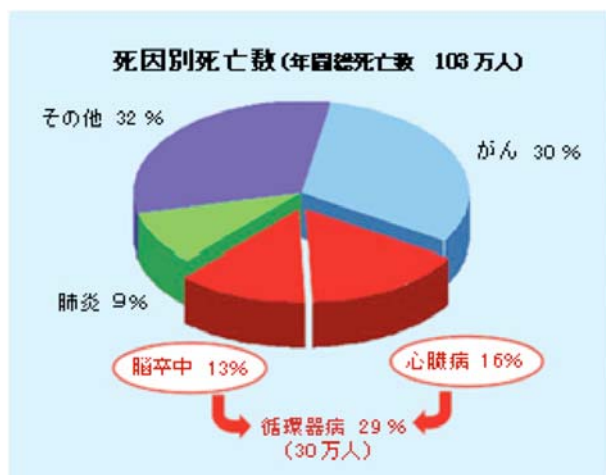


図1 死亡数ではがんが1位。2位は心臓病、3位が脳卒中。2位、3位を合わせた循環器病による死亡数はがんとほぼ同じである。

(厚生労働省人口動態統計より)

急患の搬送に欠かせない救急車

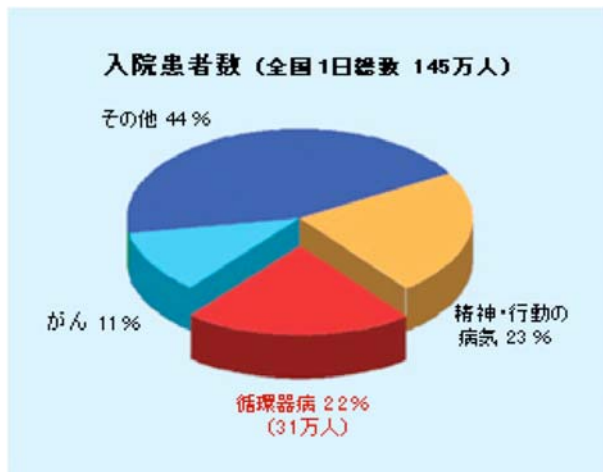


図2 循環器病の入院患者数は約31万人で、がん患者の約2倍である。(厚生労働省患者調査より)

集中治療室へ搬入される患者

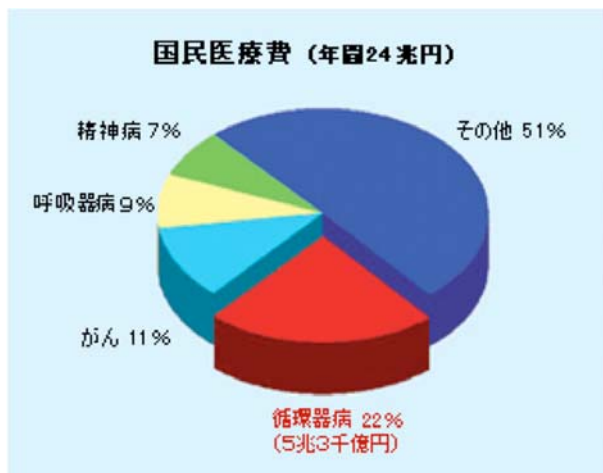


図4 循環器病の医療費が1位で、5兆3千億円。2位のがんの2兆7千億円の約2倍である。(厚生労働省国民医療費より)

集中治療室入院中の患者に多職種の連携による管理が行われている



図5 介護を必要とするほぼ2人に1人は循環器病患者である。(厚生労働省国民生活調査より)

循環器病を予防するには、定期的な健康診断と、正しい知識を身につけることが必要である。